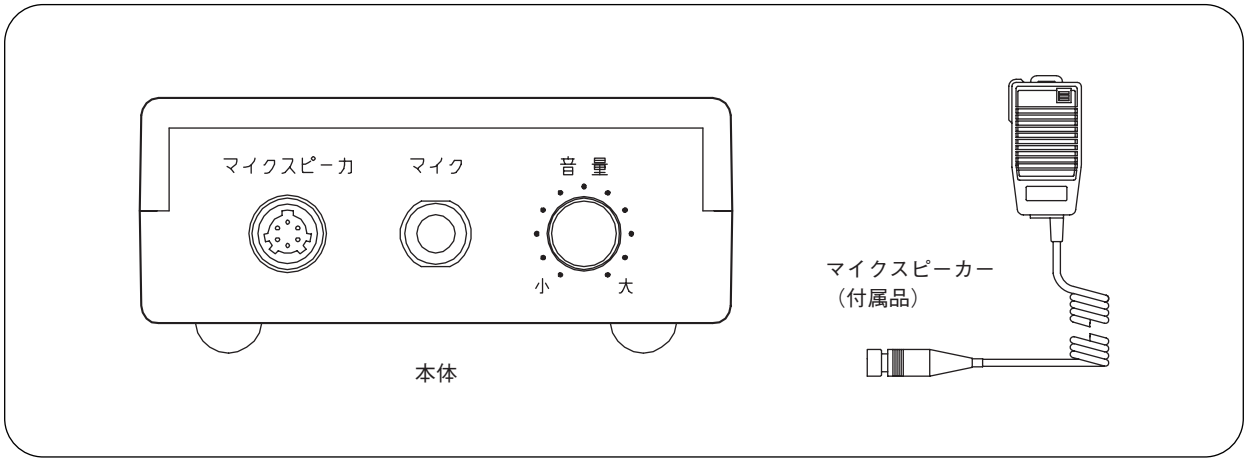
TOA

取扱説明書

リモートユニット　WF-190



目　次

安全上のご注意 …… 2
概　要 …… 3
使用上のご注意 …… 3
各部の名称と外観寸法図 …… 4
接続・設定のしかた
　ケーブルの接続のしかた …… 5
　内部スピーカーを使用しないとき …… 6
　機能コネクター ①、② の設定のしかた …… 6
設置のしかた
　壁取付金具の取り付けかた …… 6
　マイクハンガーの取り付けかた …… 7
　マイクスピーカーおよび
　ヘッドセット WF-182 の接続のしかた …… 7
　卓上型マイク PM-660W の接続のしかた …… 7
簡易同時通訳システムでの使用のしかた
　システムの使いかた
　　システム例（1）：
　　通訳者の音声だけを送信したい場合 …… 8
　　システム例（2）：
　　話者と通訳者の音声を送信したい場合 …… 9
　リモートユニット WF-190 側の
　接続・設定のしかた …… 9
　卓上型送信機 WM-1110 側の
　接続・設定のしかた …… 10
仕　様 …… 11
　付属品 …… 11

このたびは、TOA リモートユニットをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しくご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

TOA 株式会社

安全上のご注意

- ご使用の前に、この欄を必ずお読みになり正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保管してください。

表示について

ここでは、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

図記号について

行為を禁止する記号	行為を強制する記号
禁　止	強　制　 電源プラグを抜け

⚠ 警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

水にぬらさない

本機に水が入ったりしないよう、また、ぬらさないようにご注意ください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

指定外の電源電圧で使用しない

AC アダプターを使用するときは、表示された電源電圧を超えた電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。
落ちて、けがの原因となります。

禁　止

適切なねじ類を使用する

壁の材質、構造に適したねじ類を使用してください。
守らないと、落下して、けがの原因となります。

強　制

使用するとき

万一、異常が起きたら

次の場合、AC アダプターの電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 落としたり、ケースを破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（心線の露出、断線など）

電源プラグを抜け

液体の入った容器や小さな金属物を上に置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

禁　止

⚠ 注意

誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

湿気やほこりの多い場所などに置かない

湿気やほこりの多い場所、直射日光のあたる場所や熱器具の近く、油煙や湯気のあたるような場所に置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

禁　止

ケーブルを接続するときの注意

ケーブルの接続は内部を開けて行いますが、この場合は次のことをお守りください。守らないと、火災・感電の原因となることがあります。

- 導線の切断片を内部に落とさない。
- 工具などで内部を傷付けない。
- 導線やシールド線などを内部の部品に当てない。
- 工具や手を部品に近づけて、静電気を内部に飛ばさない。

強　制

AC アダプターは指定のものを使用する

指定以外のものを使用すると、火災の原因となることがあります。

強　制

お手入れの際、長期間使用しない場合の注意

お手入れのときや長期間本機をご使用にならないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
守らないと、感電・火災の原因となることがあります。

電源プラグを抜け

概　要

本機は、接続された機器の操作を離れた所から行えるリモートユニットです。
本機には、付属のマイクスピーカーや別売の卓上型マイク PM-660W などが接続できます。

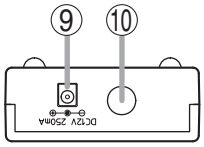
使用上のご注意

- 本機の電源は、DC12 V、250 mA です。
  接続した機器から電源の供給を受けるか、別売の AC アダプター AD-122 または AD-125 をご使用ください。
- 本機を清掃するときには、必ず電源を切ってから、乾いた布でふいてください。また、ひどい汚れは中性洗剤をしみこませた布を使用してください。ベンジン・シンナー・アルコール類・化学ぞうきんなどは絶対に使用しないでください。変形や変色の原因になります。

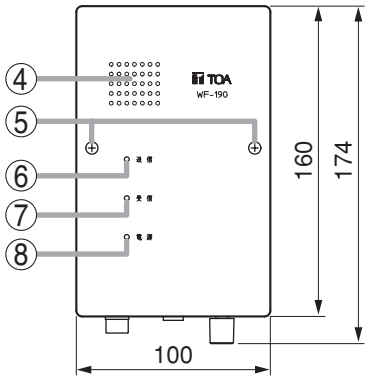
各部の名称と外観寸法図

● 本体

［後面］

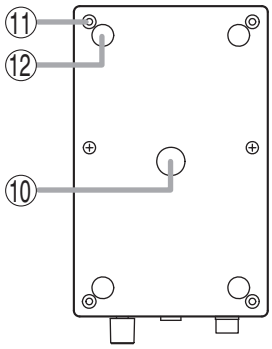


［上面］



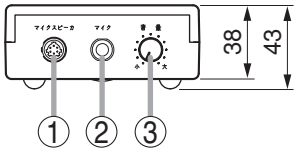
［側面］

［底面］



上ケース　下ケース

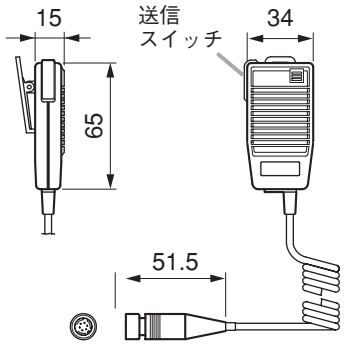
［前面］



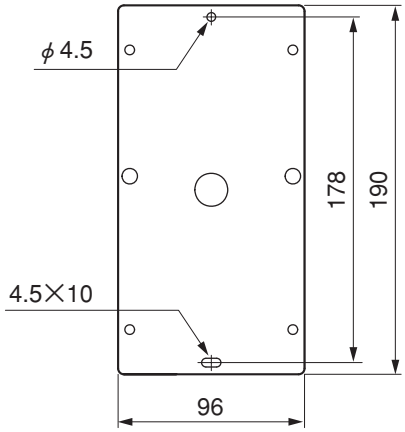
単位：mm

● マイクスピーカー（付属品）

側面にある送信スイッチを押して話します。
話し終わったら送信スイッチを離します。
※ マイクスピーカーに内蔵のスピーカーからも相手の音声は聞こえます。

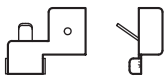


● 壁取付金具（付属品）



● マイクハンガー（付属品）

付属のマイクスピーカーを掛けます。



1. マイクスピーカー端子
付属のマイクスピーカーまたはヘッドセットWF-182（別売品）を接続します。

2. マイク入力端子
3極ホーンジャック、-58 dBV、2 kΩ。
コールド～GND端子間がメイク時に送信します。
卓上型マイクPM-660W（別売品）が接続できます。

3. 音量つまみ

4. スピーカー
相手の音声が聞こえます。

5. ねじ
マイクハンガーを取り付けるときや、ケーブルを取り付けるために内部を開けるときに外します。

6. 送信ランプ
送信時は赤色に点灯します。

7. 受信ランプ
受信時は黄色に点灯します。

8. 電源ランプ

9. DC入力ソケット
ACアダプターで動作させるときに、ACアダプターを接続します。

10. 接続ケーブル引き出し部

11. ねじ穴
付属の壁取付金具を取り付けるときに使用します。

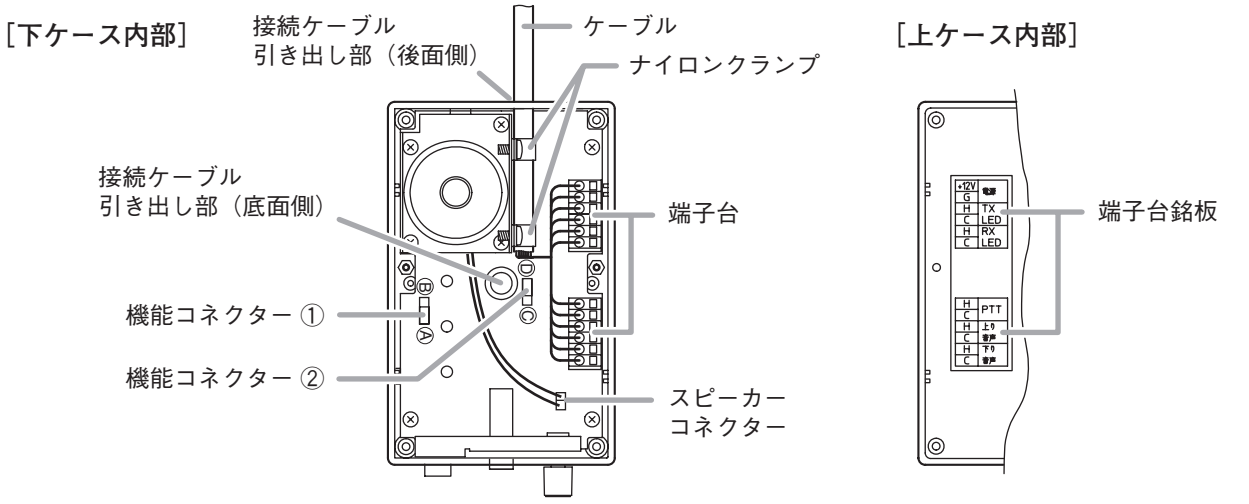
12. ゴム足

接続・設定のしかた

■ ケーブルの接続のしかた

ご注意

- 接続に使用できるケーブルは、接続した機器から電源を供給する場合は6ペア以上、ACアダプターを使用する場合は5ペア以上で、仕上がり外径が直径12 mm以下のものです。仕上がり外径が12 mmを超えるとケースの穴をケーブルが通らなくなります。
- 端子台への適合線材は、0.08～2.50 mm²（AWG28～12）です。
- ホット「H」とコールド「C」を間違えないようにしてください。間違えると、送信ランプや受信ランプが点灯したままになります。
- ケーブルがシールド付きの場合、リモートユニット側ではシールドは接続しないでください。
- シールド線や使用していない電線が本体内部の部品やパターンなどに接触しないように処理してください。



1 **本体上面のねじ（☞ P. 4）を外して内部を開ける。**

2 **ケーブルを接続ケーブル引き出し部から内部に通す。**

・ケーブルは後面または底面のどちらからでも通すことができます。
・後面から通すときは、付属のナイロンクランプを使用します。
ナイロンクランプは3種類（大・中・小）ありますので、接続ケーブルの外径に合わせて選んでください。また、接続ケーブルが細くてナイロンクランプでしっかり固定できない場合は、接続ケーブルにビニールテープを巻くなどして、ナイロンクランプでしっかり固定してください。
・底面から通すときは、接続ケーブル引き出し部をふさいでいるキャップを外して通し、そのキャップを使用しない後面の接続ケーブル引き出し部に取り付けます。

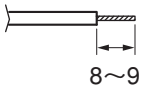
キャップの外しかた

マイナスドライバーの先などでキャップのつめを押して、外してください。
このとき、本体内部の基板部品を傷つけないように注意してください。

3 **ケーブルを先端処理する。**

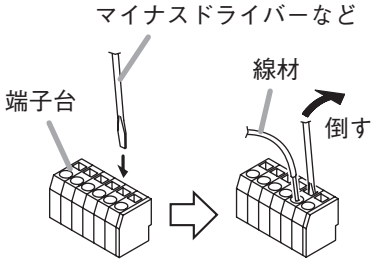
線材のむきしろは、右図を参照してください。

［線材のむきしろ］



4 **線材を端子台に差し込む。**

マイナスドライバーなどの先を端子台の四角い穴に差し込み、矢印の方向に倒したまま、線材を差し込んでください。
（右図参照）



■ 内部スピーカーを使用しないとき

ヘッドセット WF-182 を使用するときなど、本機のスピーカーからの音声をカットしたいときは、スピーカーコネクター（☞ P. 5「下ケース内部」）を抜いてください。

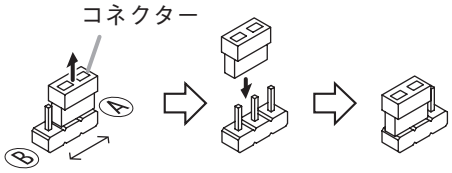
メ　モ

- 相手の音声は、マイクスピーカー端子に接続したヘッドセットのスピーカーからのみ聞こえるようになります。
- 抜いたスピーカーケーブルは、ナイロンクランプに差し込むなどして止めてください。

■ 機能コネクター ①、② の設定のしかた

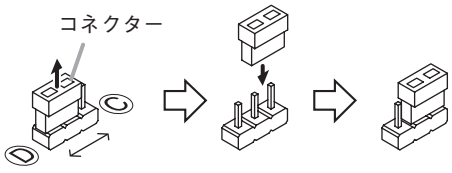
機能コネクター ① は、接続する機器に合わせて差し換えてください。

A側（工場出荷時）：据置機 WF-140 と接続するとき
B側（右図参照）　：卓上型送信機 WM-1110 と接続するとき



機能コネクター ② は、用途*に合わせて差し換えてください。
* ☞ P. 8「簡易同時通訳システムでの使用のしかた」参照

C側（右図参照）　：卓上型送信機 WM-1110 と接続し、送信スイッチを離した場合、「下り音声」の音声を「上り音声」へ伝えたいとき
D側（工場出荷時）：マイクスピーカーまたはマイク入力端子からの音声のみ「上り音声」へ伝えたいとき



ご注意

- 機能コネクター ① がA側のとき、機能コネクター ② は必ずD側にしてください。
- 機能コネクター ① がB側のとき、機能コネクター ② はCまたはD側にしてください。

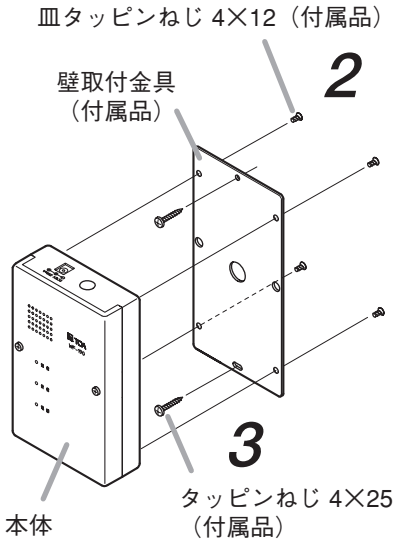
設置のしかた

■ 壁取付金具の取り付けかた

1 **本体底面のゴム足（4個）を外す。**

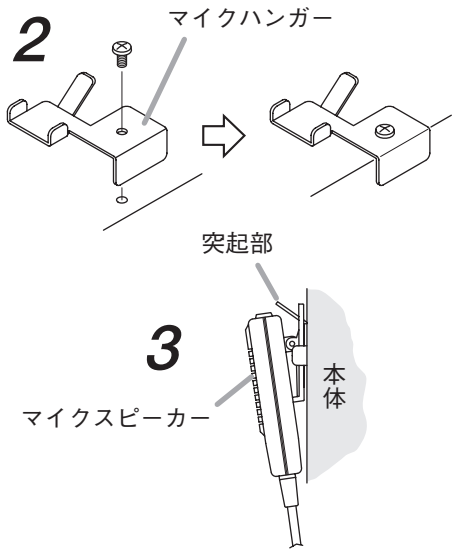
2 **壁取付金具を本体の底面に取り付ける。**
本機に付属の皿タッピンねじ 4×12 を使用します。

3 **壁取付金具を壁に取り付ける。**
※ 本機にはタッピンねじ 4×25（合板用）が付属されています。



⚠ 警告　壁の材質、構造に適したねじ類を使用してください。
適切なものを使用しないと、落下してけがの原因となります。

■ マイクハンガーの取り付けかた

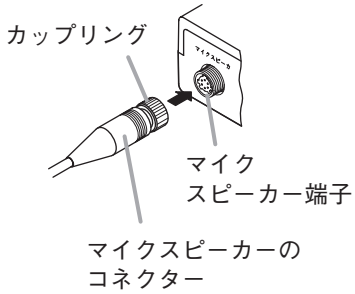


1 本体上面のねじ（右側）を外す。
※ ねじの位置は、☞ P. 4 の外観図を参照

2 外したねじを使って、マイクハンガーを本体に取り付ける。

3 マイクスピーカーのクリップの穴をマイクハンガーの突起部に引っかける。

■ マイクスピーカーおよびヘッドセット WF-182 の接続のしかた



マイクスピーカーのコネクターを前面パネルのマイクスピーカー端子に差し込み、カップリングを回して固定します。
ヘッドセット WF-182 を使用するときも、同じ要領で接続してください。

■ 卓上型マイク PM-660W の接続のしかた

WF-190 前面のマイク入力端子に接続します。
トークスイッチが送信スイッチになります。

ご注意

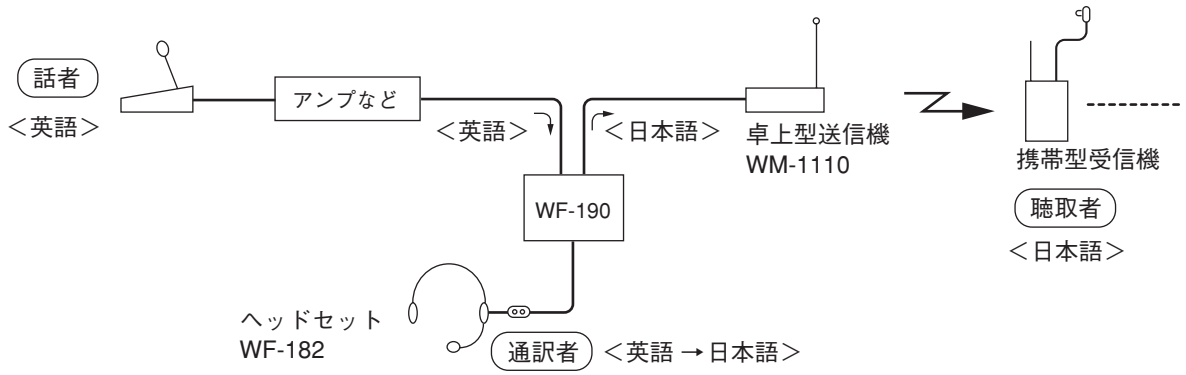
付属のマイクスピーカーと卓上型マイク PM-660W を両方接続していても使用できます。
送信スイッチを押した方のマイクの声が送信されます。

簡易同時通訳システムでの使用のしかた

本機は、ヘッドセットWF-182、卓上型送信機WM-1110、および携帯型受信機WT-1100またはWT-1101シリーズを組み合わせることで、簡易同時通訳システムとして使用することができます。
簡易同時通訳システムとして使用するときは、以下のとおりに接続・設定をしてください。

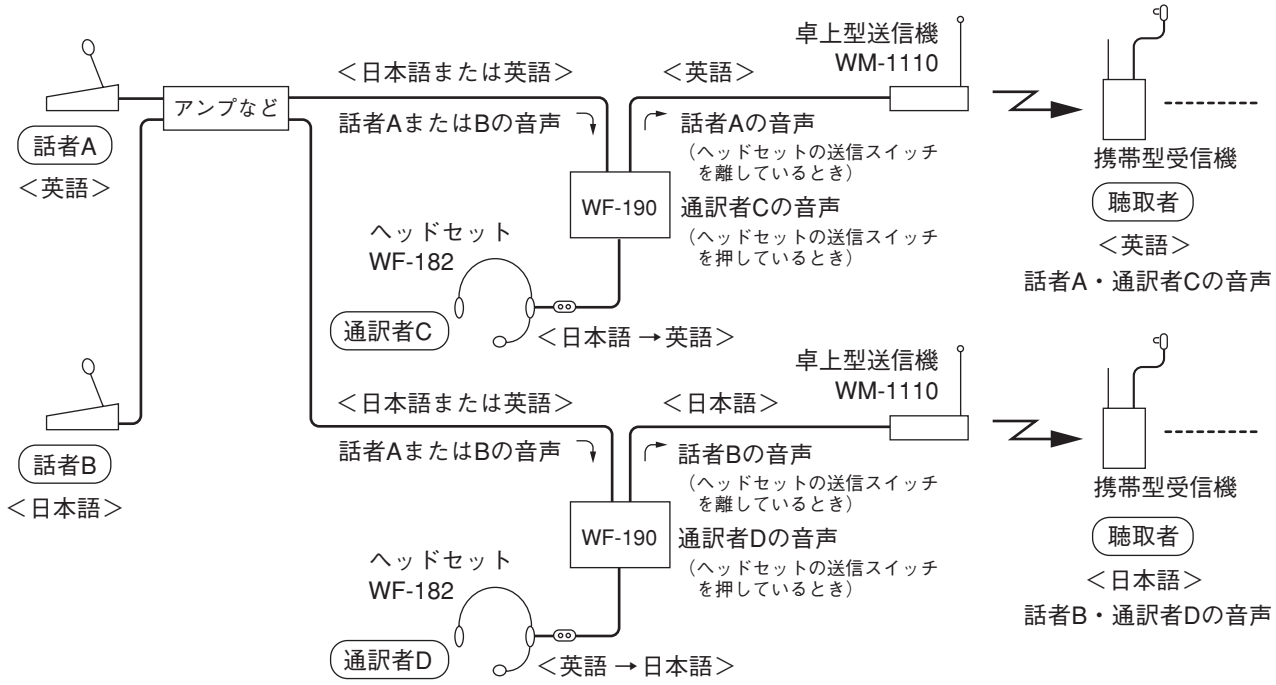
■ システムの使いかた

● システム例（1）：通訳者の音声だけを送信したい場合



1. 通訳者はヘッドセットを装着します。
2. 話者の音声はヘッドセットから聞こえます。適切な音量になるように、WF-190の音量つまみで調節します。
   アンプなどの接点出力を接続している場合は、話者の音声が聞こえているときに、WF-190の受信ランプが点灯します。
3. ヘッドセットの送信スイッチを押すと、WF-190の送信ランプが点灯し、通訳者の音声を送信することができます。
   送信スイッチには、ロックとノンロックの2種類があります。用途に応じて使い分けてください。
4. 聴取者は、携帯型受信機で通訳者の音声を聞くことができます。携帯型受信機の電源スイッチ付きボリュームで音量を調節します。

● システム例（2）：話者と通訳者の音声を送信したい場合



1. 通訳者はヘッドセットを装着します。
2. 話者の音声はヘッドセットから聞こえます。適切な音量になるように、WF-190の音量つまみで調節します。アンプなどの接点出力を接続している場合は、話者の音声が聞こえているときに、WF-190の受信ランプが点灯します。
3. ヘッドセットの送信スイッチを押すと、WF-190の送信ランプが点灯し、通訳者の音声を送信することができます。ヘッドセットの送信スイッチを離しているときは、話者の音声を送信します。
   送信スイッチには、ロックとノンロックの2種類があります。用途に応じて使い分けてください。
4. 聴取者は、携帯型受信機で話者と通訳者の音声を交互に聞くことができます。携帯型受信機の電源スイッチ付きボリュームで音量を調節します。

ご注意

- システム例（1）のとき、卓上型送信機と携帯型受信機とは同じグループ、チャンネルに設定してください。
- システム例（2）のとき、話者A・通訳者Cの卓上型送信機、携帯型受信機と、話者B・話者Dの卓上型送信機、携帯型受信機とは、同じグループで異なるチャンネルに設定してください。
- 卓上型送信機と携帯型受信機とは同じトーンに設定してください。
  （WT-1101 シリーズは、送信機のトーンの設定に関係なく、使用できます。）
- 通訳者が別室にいるときなど聴取者に電波が届きにくい場合は、卓上型送信機をエリア拡張してください。この場合、アンテナ結合ユニットYW-1110とアンテナYW-1102が別途必要です。

■ リモートユニットWF-190側の接続・設定のしかた

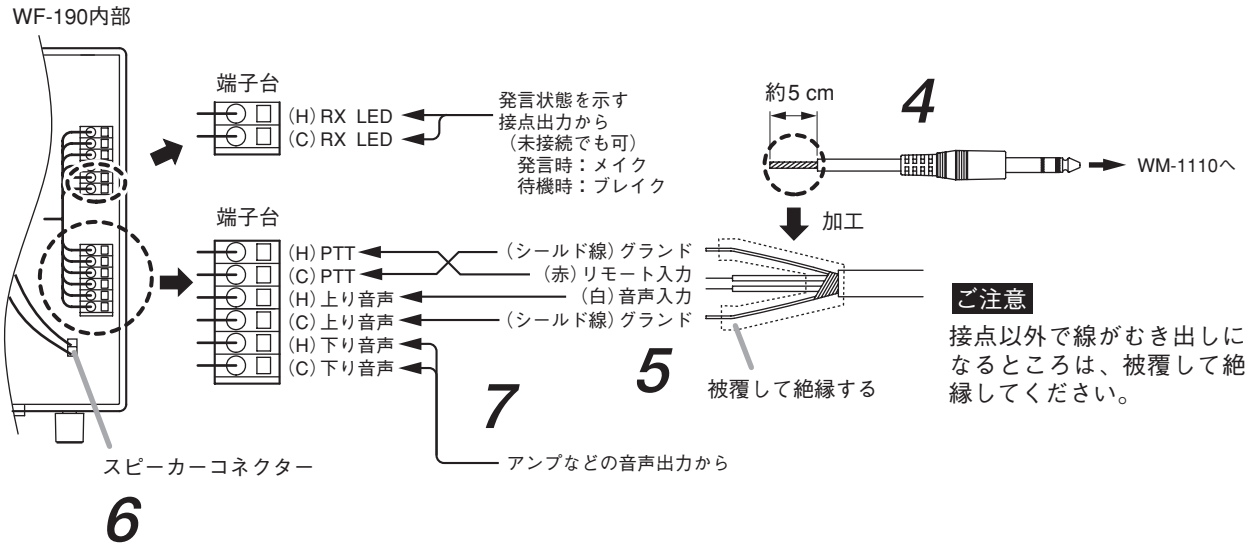
1 本体上面のねじ（☞ P. 4）を外して内部を開ける。

2 WF-190内部の機能コネクター ① をB側に差し換える。

※ コネクターの切り換えかたは、☞ P. 6「機能コネクター ①、② の設定のしかた」を参照

3 WF-190内部の機能コネクター ② を以下のように差し換える。

・システム例（1）の場合：D側
・システム例（2）の場合：C側
※ コネクターの切り換えかたは、☞ P. 6「機能コネクター ①、② の設定のしかた」を参照



4 卓上型送信機 WM-1110 に付属の 3 極ホーンコード（2 m）を、接続に必要なだけの長さに切断して被覆を約 5 cm 取り除いてから、シールド線を 2 つに分け、先端を上図のように加工する。

5 3 極ホーンコードを WF-190 内部の端子台に接続する。

6 WF-190 内部のスピーカーコネクターを抜く。

7 アンプなどの音声出力（話者の音声出力）を WF-190 内部の端子台の「下り音声」に接続する。

8 本体の上面カバーを元どおりにねじ止めし、WF-190 前面のマイクスピーカー端子にヘッドセットを接続する。

9 WF-190 後面の DC 入力ソケットに別売の AC アダプター（AD-122 または AD-125）を接続する。

■ 卓上型送信機 WM-1110 側の接続・設定のしかた

1 3 極ホーンプラグを WM-1110 の入力端子に接続する。

2 WM-1110 の入力レベルを「−18 dBV」に設定する。

3 WM-1110 のリモートスイッチを設定する。
システム例（1）の場合：「有」
システム例（2）の場合：「無」

4 WM-1110 の電源スイッチを時計方向に回して、電源を入れる。
※ 詳しくは WM-1110 の取扱説明書をお読みください。

仕　様

電　　源	DC12 V
消 費 電 流	250 mA
適 合 電 線	5 ペア（電源を供給する場合は 6 ペア）、仕上がり外径：φ 12 mm 以下
機　　能	機能コネクター①：接続する機器に合わせて切り換え 機能コネクター②：用途に合わせた音声送りの切り換え
仕　上　げ	ABS 樹脂、ライトグレー（マンセル 5Y8/0.5 近似色）
寸　　法	100（幅）× 43（高さ）× 174（奥行）mm（突起部含む）
質　　量	400 g

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

マイクスピーカー …… 1
壁取付金具 …… 1
マイクハンガー …… 1
ナイロンクランプ（大） …… 2
ナイロンクランプ（中） …… 2
ナイロンクランプ（小）* …… 2
皿タッピンねじ 4 × 12 …… 4
タッピンねじ 4 × 25 …… 2

* 本体に実装済みです。

TOA

TOA お客様相談センター

商品の内容・組み合わせ・取り扱い方法や修理に関する
ご相談にお応えします。
受付時間 9：00 ～ 17：00（土日、祝日除く）

フリーダイヤル（無料電話）
TEL. 0120 - 108 - 117
TEL.（0797）72-7567
FAX.（0797）72-1090

商品の価格・在庫・修理などのお問い合わせ、およびカタログのご請求については、取り扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。

TOA ホームページ　http://www.toa.co.jp/

133-07-178-6D